

小豆島町

議会だより

No.16

平成22年5月1日 発行



ジョウコウジザクラを見る内海保育所の子どもたち（常光寺）

● 審 議 議 案

平成22年度予算など 2

● 一 般 質 問

11名の議員が質問 4

● 住民の声・町の力 10

新しい体制に期待を込め 平成22年度予算成立

平成22年第1回定例会が2月24日から3月19日までの24日間の会期で行われました。第1日目である24日には、平成22年度各会計予算や新規条例などが提案されました。続く翌日の第2日目は、提案された議案のうち条例改正など一部を可決し、各会計予算や新規条例などは常任委員会に付託しました。

3月3日の第3日目は、一般質問が行われました。

そして最終日の19日には、付託議案の採決や追加議案の補正予算などの審議が行われ、全て原案どおり可決されました。

審議した主な議案

平成22年度予算・意見をつけて可決

新年度予算のうち、一般会計予算は、4月に町長選挙、町議会議員選挙を控えていることもあり、義務的経費や経常的経費、緊急を要する経費などを計上した骨格予算となっています。

その他の特別会計予算と企業会計予算は、経常的な住民サービスのための予算であり、通常の予算編成が行われています。

町議会では、これらの12件の予算議案について、総務、教育民生、建設経済の

各常任委員会に付託して、延べ5日間にわたって審議しました。その結果、次のような意見をつけ、賛成多数で原案どおり可決しました。

二 一般会計

〔企画財政課〕

ふるさと納税に協力を得られるよう、多方面に啓発を願います。

〔環境衛生課〕

野犬対策・生ゴミ処理・

野焼き等、町民の協力を得なければならぬことは、周知の徹底を図られたい。

〔オリーブ課〕

九州等、他地域においてオリーブ栽培が始まる中、

小豆島オリーブの確立を図るため、ブランド化、新商品開発、販路開拓、オリーブウムシの駆除、廃液・搾りかす処理の研究等、また島民にも利用促進できるように、他の関係機関とも協力しながら、小豆島オリーブにとり、ここ数年の動きの重要さを考え、努力されたい。

〔人権対策課〕

地域における自主自立意識の向上を促す施策を検討されたい。

〔社会教育課〕

社会体育関係施設・備品の台帳を整備し、計画的に修理・補充をされたい。

条 例 制 定

○小豆島町庁舎整備基金条例
庁舎問題特別委員会において、行財政運営の効率化のために本庁舎方式に移行する方向性が確認されています。

耐震性の問題からも新庁舎建設が必要ことから整備に要する経費の財源に当てるため、基金を設置するものです。

○小豆島町健康生きがい中核施設条例
香川県立小豆圏域健康生きがい施設(サン・オリーブ)が町に譲与されることに伴い、公の施設として設置条例を制定するものです。

条例の一部改正

○小豆島町教育長の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する条例
これまで一般職と同様の取り扱いとなっていた教育長の給与について、特別職報酬等審議会の答申に沿って、常勤の特別職である町長、副町長と同様の取扱いにするよう改正するものです。

○小豆島町財政調整基金条例
財政の健全化を図るには、後年度における町債の償還に必要な財源確保が必要です。そのため、決算上剰余金の処分による基金への積み立てについて、現在の財政調整基金への編入に加えて、減債基金への積立を可能にするため、改正するものです。

○内海病院整備基金条例
内海病院の施設や医療機器を整備するための基金であったものを、名称を内海病院事業基金と改めます。

その上で、地域医療を安定的に確保するため、医師確保対策や経営健全化対策



平成22年第1回定例会 最終日

に活用できるように改正するものです。

○小豆島ふるさと村条例

国民宿舎小豆島の客室の一部を質の高いものに改修したことに伴い、新たな料金設定にするため、改正するものです。

○小豆島町国民健康保険税条例

被用者保険の被保険者本人が後期高齢者医療制度に

移行することに伴って、保険税の軽減措置が実施されていましたが、22年度以降も後期高齢者医療制度の廃止までの間、軽減措置を継続するものです。

移行することに伴って、保険税の軽減措置が実施されていましたが、22年度以降も後期高齢者医療制度の廃止までの間、軽減措置を継続するものです。

○その他の改正

- ・小豆島町職員の勤務時間、休暇等に関する条例
- ・小豆島町職員の育児休業等に関する条例
- ・小豆島町職員の給与に関する条例

補正予算

一般会計(第6号・7号)

第6号の補正予算額は1億3453万円の増額で、第7号の補正予算額は5億3023万7千円の増額であり、補正後の予算総額は87億4397万円となります。主なものは、次のとおりです。

○総務費

マイクロバス等購入費 1057万6千円
防災行政無線デジタル化整備事業 414万6千円
庁舎整備基金積立金 3億4300万円
ふるさとづくり基金積立金 1億2599万5千円
減債基金積立金 1億8204万6千円

○民生費

子ども手当システム導入委託料 410万1千円

○衛生費

老朽管更新事業負担金 1600万円

病院会計負担金 5728万9千円

○労働費

働く婦人の家屋上防水等改修事業 1253万8千円

○商工費

オリーブ公園休憩施設及び散策道路等整備事業 1500万円
国民宿舎小豆島外部改修事業 3350万円

○土木費

橋梁維持補修事業 2600万円
道路維持補修事業 6300万8千円
本堂川高潮対策工事 650万円
草壁港浮桟橋補修事業 1300万円
坂手港浮桟橋補修事業 600万円
草壁地区改良住宅屋根改修工事 1122万円

議員発議

条例の一部改正

○小豆島町議会委員会条例
議員定数が16人となることに伴い、常任委員会の構成を総務建設常任委員会と教育民生常任委員会の2つにし、委員定数を8人に変更するとともに、議会運営委員会の委員の数を6人とするものです。

意見書

○核兵器の廃絶と恒久平和を求める意見書

国是である非核三原則を堅持するとともに、平和市長会議が提唱する2020年までに核兵器の廃絶をめざす「2020ビジョン」を支持し、その実現に向けて取り組むこと。

非核兵器地帯構想が世界平和の維持に重要な意義を有していることに考慮し、暫時、世界各地に非核兵器地帯条約が実現するよう国際的努力を行うこと。特に、朝鮮半島と日本を含めた北東アジア非核兵器地帯構想を早急に検討すること。

核拡散防止条約(NPT)の遵守及び加盟促進、包括的実験禁止条約(CTBT)早期発効、核実験モラトリアムの継続、兵器用核分裂性物質生産禁止条約(カットオフ条約)の交渉開始と早期妥結に全力で取り組むこと。

○永住外国人に対する地方参政権付与の法制化に反対する意見書

日本国民ではない永住外国人に対し、地方公共団体の長及び議会の議員の選挙権を付与することは、憲法上問題があると言わざるを得ない。

一方、国籍法第4条では、「外国人は、帰化によって、日本の国籍を取得することができ」と規定され、永住外国人が、憲法に基づく参政権を取得するためには、この国籍法に定める帰化によるべきものと考えられる。よって、国におかれては、永住外国人に対する地方参政権付与に関する法律を制定することのないよう強く要望する。

○選択的夫婦別姓のための
民法改正について慎重な
対応を求める意見書

結婚後も夫婦がそれぞれ
結婚前の姓を称することを
認める選択的夫婦別姓制度
を導入する民法改正案が、
来年の通常国会に提出され
る動きがあるとの報道がな
されている。

夫婦別姓のため、私たち
の家庭・家族が根底から覆
され「家族の維持」より「個
人の利便」が優先する利己
一辺倒の社会となれば、祖
先より子孫へという繋がりを
大切にす精神の伝統は
断絶し、高齢者の介護や親
族間の扶養義務の思いも薄
まり、民族の伝統文化は急
速に変質することが憂慮さ
れる。

日本の伝統文化を守り、
国の繁栄と平和な生活と共
栄を願う立場から、国にお
いては、「夫婦・親子同姓」
制を堅持するため、選択的
夫婦別姓法案につき慎重に
対応することを強く要望す
る。

全国町村議会議長会表彰

2月9日、全国町村議会議長会第61回定
期総会で、本町から村上議員が町村議員表
彰を受賞されました。



香川県町村議会議長会表彰

2月23日の香川県町村議会議長会第61回
総会において、渡辺議員、植松議員、新茶
議員、藤井議員が議員表彰を受賞されまし
た。



一般質問

池田中学校問題の対応は



森口 久士 議員

森口議員 統合問題につい
て、保護者、地域住民への
説明会の予定は。

校舎の1次診断I.S値が、
0.3から0.12にいつどうして変
わったのか。

教育委員会は、池田中学
校の耐震化工事を統合問題
とは切り離し、生徒の安全
確保を優先し、23年度に実
施したい意向があると聞く。

22年度に2次診断の委託
料が予算計上されているが、
早期に耐震化工事を実施す
る考えは。

答弁 中学校及び小学校の
統廃合は、保護者・住民の
方に理解を得られるよう努

めることが重要で
あり、意見を無視
して統合を強行す
る考えはありません。

早い時期に保護
者及び地域住民と
の説明会を予定し
ていましたが、も
う少し先に考えて
います。

池田中学校校舎
の耐震診断値は、
1次診断の結果で
あるために、0.3未
満、0.3以上0.6未満
0.6以上の3段階で
の公表としていま
した。

文部科学省から
平成21年6月に公
表状況の調査があ
り、平成21年10月
1日までに公表す
るよう指導があ
り、0.12としました。



卒業生の新たな門出を祝して（池田中学校卒業式）

2次診断を実施して、耐
震補強工事を実施できる場
合は、補正予算で平成22年
度内に補強計画及び実施設
計を作成するスケジュール
を想定していますが、新執
行部の判断で、耐震化工事
を進めます。

小豆島町の今後の重要課題を問う



浜口 勇 議員

浜口議員 時の流れと共に住民のニーズも変化する。政権が変わると国の政策も変わらざるを得ないと思うが本町の今後の重要課題としてどのような事があるのか。

答弁 昨夏の衆議院議員選挙で民主党政権が誕生し、あらゆる政策について大幅な見直しが行われています。町政では、合併2年目の平成19年度に新しい課題を盛り込み、方向性を示した総合計画を策定し、20年度からこの計画に基づいた町政運営を行ってきました。

また、行財政改革については、集中改革プランや中期財政計画の策定など、合併当初から、間断なく努めてきました。今後の重要課題は、まず治水・利水の両

面から本年度中に本体工事に着工する予定の内海ダム再開発事業、高校を含めた学校再編、行政改革の要となる庁舎問題、内海病院の医師確保です。

2月初めにテレビの全国

放送でオリブオイルが取り上げられた時には問い合わせが殺到したと聞いており、今後も島を舞台としたテレビドラマが4本放映予定です。オリブ百年祭、全国醤油サミットに続いている流れを確固たるものに、島のブランド化を一層推進する事が島の将来につながるものと確信しています。



小豆島オリブバスをどう守っていくか



中江 正 議員

中江議員 議会だよりが発行されるころには、オリブバスが路線バスを運行していると思う。

厳しい事業運営が予想されるだけに、地域全体でバスを守る取り組みが必要だ。バス利用を呼びかけ乗車密度を上げて「乗って残す」ことが必要である。

企業の中には環境にやさしいバスを利用するよう呼びかけていることも聞こえており、心強く思っている。また、観光小豆島を考えると、紅葉雲など非生活路線はどうするのか。

答弁 オリブバスは、生活路線5路線、土庄町・小豆島町からの委託路線3路線の計8路線の運行です。土庄町とで1千万円の出資で、現在、資本金3千万円です。より多くの人が利用していただくことが大切だと思います。

スクールバスも含め、安

定した収入が得られるよう支援し、アンケートを参考に利用促進のため働きかけていきます。

行政・企業・地域住民が連携してエコ通勤の推進や利便性の向上にも取り組んでいきます。町職員にもノーマーカーデーの設定を呼び掛けることを考えています。

非生活路線は、観光関連受益者などの応分の負担や協力で、維持を図っていきます。



乗って残そう路線バス（安田バス停）

内海ダム再開発の正しさについて



森 崇 議員

森 議員 昨年12月の720人が集まったダム早期完成を求める集会上、私も参加した。最近、高松の県議のチラシが私の家に入っていたが、住民が間違っているように書かれている。

矛盾した政治を利用してダム反対に結び付けている。これらの主張こそ間違っていると思う。寒霞溪の景観やダムの貯水量、被害の大きさ、別当川流域だけ命が守られていることや雨の量からして正しい選択だと思

答弁 昭和59年に予備調査が始まり、昨年12月には本契約が締結されました。

一日も早い完成が望まれ、法的正当性も確立しており、事業停止はないと思っています。反対派の主張は誠に

遺憾です。景観も守られ、堆砂容量・利水容量・洪水容量を計算すれば106万トンです。水も年間流入量から見て十分に溜まると考えています。

内海病院を どう守るのか

森 議員 医師確保について

て、町はなぜ町議会議員、町民に相談しないのか。解決のめどはあるのか。町民の幅広い協力が必要だと思

答弁 内科医は4名体制になる予定です。議会にも報告や相談をします。

一部の休床はやむを得ないと考えています。診療報酬の10年ぶりのプラス改定など国も考えているようです。民間病院も含め幅広いご協力を願っています。



720人の参加者で会場はいっぱい（12月12日）

「島は一つ」の思いを次の町長へ



藤本 傳夫 議員

藤本議員 島は一つの考えのもと、段階的合併として小豆島町が誕生した。今、土庄町との合併の話し合いはないが、将来的には島は一つの共同体でなければならぬと考える。町長の考えは。

答弁 私は、内海町長として島を一つにの思いから、地域間競争に勝ち残る手段として合併を選択しました。

池田は「股裂き状態」と表現されるほど、痛みは内海より強かったと理解しています。相手方の土庄町も時代が変化する中で、合併を断念する事態になっています。

新町長と議会が、何より町民の意向に沿った結論を導き出されることを願うのみです。

通学路の拡幅を

藤本議員 池田小学校の通学路の迎地中道線から大池浜条線に至る道の改良、拡幅を。

答弁 学校や地元の方々にご意見をお聞きしますが拡幅をするなり、側溝に蓋をする場合、農道整備として実施することになります。

農道は、拡幅を行う場合は用地提供も含め受益者負担の問題も生じます。

この件には単独県費補助土地改良事業や小豆島町土地改良区が事業主体で実施している原材料支給事業があります。



改修が望まれる池田小学校通学路

社会教育の充実と活性化の施策を



新名 教男 議員

新名議員 昭和40年代、小豆島町は県下でトップクラスの社会教育先進町で「健康（スポーツ）」に対する意識は非常に高いものがあつた。

小さな自治会ごとにバレーコートがあり、住民の自主運営により活動が行われ、住民自治の意識向上に役立っていた。

現在、高齢者を中心にゲートボール、グラウンドゴルフ「歩くこと」など活発に行われている。町民にとって一番大切な「健康づくり」と「医療費削減」を考える時、社会教育全般の再構築を考えるべきだ。



苗羽地区バドミントン大会（B&G体育館）

答弁 各地域においては、公民館を拠点に各種教室、講座やスポーツ大会の開催等、地域の活性化や人材育成に向けた事業に取り組んでいます。

また、文化・体育協会加盟団体へは、施設の無料提供、大会・教室に対する助成金の支給等、支援を行っています。

住民同士の交流には「ふるさと発見！健康ウォーク」や「三世代交流グラウンドゴルフ大会」等、22年度には新しく「青年交流スポーツ大会」を計画しています。

しかし、少子高齢化や生活様式の多様化等により、事業の見直しが必要となっております。

今後、「教育による町づくり」に向けて、健康づくりも含めて、課題の解決に向けた事業の実施を検討します。

国保税の引き下げを



鍋谷真由美 議員

鍋谷議員 国民健康保険税の負担の重さを訴える国保加入者の声が多い。国保会計の6億円の基金を取り崩し、1世帯1万円以上の国保税引き下げを求める。

答弁 町の国保税は県内各市町と比較しても低く抑えられているのに対し、医療費は非常に高くなっており、税率の上昇を抑えるために、基金を計画的に取り崩していきます。

オリーブバス運行への取り組みは

鍋谷議員 町民に自分たちのバスという意識を持ってもらい、バスを利用し、会社を支えてもらうために、



乗りましたか？オリーブバス

できることはすべて取り組む必要があると考えるが。

答弁 バス停施設の整備等、利用促進に繋がる方策について、国・県の協力や支援を得、土庄町とも連携して積極的に取り組みます。

子宮頸がんワクチンの助成を

鍋谷議員 子宮頸がんは、ワクチンで予防できる唯一のがんである。明石市等で公費助成を開始している。本町でも助成を求める。

答弁 受注業者に対して、下請け、孫請けにしわ寄せをすることがないように常々申し入れてきたところですが、ただ、市や町が散発的に条例を定めて解決できるものではなく、国が法律で規定すべきものと考えます。

答弁 ワクチンの承認や使用開始からの月日も浅く、国の方針も明確でない現時点では、費用助成の実施予定はありません。

公契約条例の制定を

鍋谷議員 行政が発注する事業のダンピング受注などを規制し、地域中小企業の経営安定、地域経済の振興などを目的とする「公契約条例」の制定を求める。

非正規労働者の待遇改善と 正規職員確保を



村上 久美 議員

村上議員 住民全体の奉仕者としての職務に誇りをもつて、健康で安全に遂行するための労働条件の改善が必要です。専門資格をもつ保育士、介護士等の非正規労働者に対する退職金等の支給や非正規労働者を正規職員に任用替えにすること、有資格者がUターン就職の場合の正規採用で対応することを求める。

答弁 保育士、幼稚園教諭、ヘルパー、准看護師等で勤務している嘱託職員の賃金の見直しを行いました。民間事業所と比較して低賃金で劣悪とは考えていません。

内海病院・福田診療所運営について

村上議員 深刻な医師不足の上にさらに内科医が退職する中、医師確保のめどはあるのか。今後の内海病院の健全な運営方向は。福田診療所存続はどのようなのか。

答弁 医師確保は病院の健全運営のためにもかかせず、いろいろ手を尽くしている

最中です。
福田診療所の今後は地区住民のご意向や、内海病院の状況等もふまえながら引き続き検討します。

「小豆島町こども議会」の実施を

村上議員 小豆島町の未来を担う子どもたちの新鮮な発想を町政に取り入れる目的として意義は大きいと考え「小豆島町こども議会」の実施を求める。

答弁 こども議会の実施に異論はないのですが、学校の意向を尊重していきます。



存続が望まれる福田診療所

内海病院の医師の確保について



渡辺 慧 議員

渡辺議員 1年前に8人いた内科の常勤医師が、現在半減し、診療に支障をきたしている。こうしたことから病床も一部閉鎖をしたり、高度な医療機器等も使いこなされていないようだ。町民の間には不安が広がっている。

医師不足の原因は、平成16年度に導入された「新医師臨床研修制度」により、医師が自由に研修先を選べるようになった影響と言われている。

国に対して制度の見直しや、給与等の待遇改善、土庄中央病院との連携等考えられるが、どのような対応をするのか。

また、異動等の通達が職員や患者に伝わるのが遅く混乱しているとの声を聞くが。

答弁 国においては、研修制度を平成21年度に見直しをしています。待遇面の改善については、今年度より救急勤務、分娩手当を支給、新年度では手術・検査等の手当の支給を予定しています。また、老朽化した医師

住宅の建設を予定する等、鋭意取り組みます。
土庄中央病院との連携は、手始めに診療材料の共同購入の検討を始めており、できることから進めます。
また、異動等の情報については、大学の人事による異動は事前協議があり、早めに周知できるが、それ以外は正式の手続きを踏まなければ公表できないことをご理解ください。



一部休止となった5階病棟

2町合併時の想いを引継ぐべき



安井 信之 議員

一つ行政体になれば意志決定が円滑に行われることは間違いないですが、本町における合併の功罪を検証し、住民の意志を確認しながら進路を見定めること

が必要です。
新しい執行部と議会が議論を重ね、住民にとって最良の道を選択されるようお願いいたします。
次期町長に合併時からの経過、考え方を説明します。現在、土庄町は合併の意志はないと思います。合併について打診をしています。回答はありません。

安井議員 2町合併は小豆島がひとつになることを願った合併であったと私は認識している。町長は、内海は産業の町、土庄は商業の町、池田は行政の町ということで均衡ある発展が必要であると答弁している。私も均衡ある発展が、合併した側で進められなければ将来合併しようとする側は、合併自体に疑心を抱き大きな障害になってくると考える。

今限りで勇退される町長は、次期町長に託す意味でもどのように考えているのか。

答弁 小豆島の2町は、互いに町民の福祉向上に努めて、一部事務組合で共同処理も行っています。
小豆島共通の課題が山積



最後の答弁に立つ坂下町長

新商品開発に支援を



秋長 正幸 議員

秋長議員 小豆島は、オリブ油の90%以上、ゴマ油は50%以上の国内シェア、オリブの生産量も右肩上がりである。しかし、九州で植付けも始まり、将来への対応として小豆島産オリブの認知度を向上させる必要がある。

農・商・工の連携で新たな商品開発の提案を県産品振興室へ有志と共に行き、さぬきラー油を例にあげ、今後新しい商品開発に地元食品産業界、農業界、販売戦略を統合的に検討する場が必要ではないか。仮称小豆島物産協会を設立しては。

答弁 産・学・官のネットワークの構築、販売拡大、情報提供、商品開発等を目的として「小豆島食料産業クラスター協議会」を設立し、現在47社14団体のメンバーで構成されています。かがわ産業支援財団が行う農商工連携ファンドの説

明会、地域食品ブランド「本場の本物」の運用、展示会への参加案内を行っています。
新製品の開発は、農林水産業者と商工業者のマッチングによる地域資源活用型の補助事業の活用も可能で



地場産品展示場（オリブナビ）

住民の声

地域活性化の起爆剤に

九野 賢輔（中山自治会会長）



今年7月19日から10月31日の会期で瀬戸内海の7つの島と高松を会場に瀬戸内国際芸術祭の開催が予定されており、我が自治会区域の中山地区も会場に選ばれています。中山地区はかやぶき屋根の歌舞伎舞台と氏神様があり、毎年10月に農村歌舞伎を奉納することが江戸時代後期から守り伝えられています。また、中山地区には日本棚田百選にも選ば

れた棚田が歌舞伎舞台を中心にひろがり、湯舟山の中腹から豊富に湧き出る水は日本名水百選にも選ばれています。近年ではこれらの景観のよさが認められ里山百選にも選ばれています。

今回の芸術祭ではこのような美しい情景の中で、世界的に有名なアーティストの方々が自然と調和した作品を制作、展示されることにより、国内外を問わず大勢の皆さんが来島されるとお聞きしています。当初は本当に何万人もの人々が来られるのか疑心暗鬼でありましたが、先般、芸術祭先進地の直島町を視察する機会に恵まれ、若い女性たちや外国人を含む多くの見学者がいることに驚きました。

今回の国際芸術祭を機に、中山地区の豊富な自然を活かして、継続した地域の活性化につなげられればと思っています。



町の力

池田男子

バレーボールクラブ

池田男子バレーボールクラブは、平成21年度に6年生が卒業して以来、4年生と3年生7名の団員で活動しています。岡田旭生監督の指導の下、週に火、木、土の3回、池田小学校の体育館で練習をしています。

3、4年生ということや団員の少なさもあり、なかなか思うような結果を残す

ことはできていませんが、子ども達もそれぞれに目標を持ち、技術的にも精神的にも、少しずつ成長しているところです。

バレーボールは、コートにいる6人がボールをつながないと点にならないスポーツです。ボールをつなぐ心をつなぐために、笑顔

を忘れず、みんなで声をかけ合

い、励まし合うことをモットーに今日も練習に励んでいます。

一人でも多くの子ども達に、バレーボールの楽しさを知ってもらい、一緒に活動できることを願っています。内海、池田地区を問わずバレーボールに興味のある子ども達は、ぜひ一度池田小学校体育館まで見学にお越しください。

元気な仲間が待っています。



池田男子バレーボールクラブ

編集後記

過日、読者の方よりタイトルと中身がかみ合っていないというご指摘がありました。

ご意見をいただいた方には、いつも熱心に広報紙に目を通していただき誠にありがとうございました。そのことに喜びを感じました。どうぞ今後ともご指導の程お願い申し上げます。

町議会議員の町政に対する思いを紙面に編みこむ作業が、私たち編集委員に課せられた使命です。個々の議員の思いを忠実にわかりやすく住民の皆様知らせる編集を心がけてきました。

4月には町長・町議の改選があります。この広報紙が届く頃には新町長、新町議が誕生し、小豆島町も5年目に向かって前進していることと思います。

新しい議会でも、議員の意見や活動を多くの皆様に伝える「議会だより」をご愛顧いただきますようお願いいたします。

大勢の方々のお力添えをいただきましたことに心から感謝しつつ、私の最後の編集後記といたします。

谷 清 記